

右稱御三家、○中略乘輿は打揚腰黒也。

〔柳營秘鑑二〕一萬石以下にて乘輿者

高家 表高家 御側衆 駿河御城代 御留守居 大御番頭

右之分御免也、其内表高家者、無官に而白衣、

無垢著用之、右之外喜連川左兵衛督、

松平志摩守、何も代々乘輿嫡子部屋住に而も乘輿代替之節、家老御太刀目錄を以、御目見申上、

一諸大名侍従たる人之嫡孫部屋住にて乘輿不罷成、縦御連枝少將たる人之次男三男、勿論乘輿不罷成、但國主者各段之子細有之、

〔武家掣要〕諸家格供立之事

打上

御三家并御分家不殘、越前家不殘、薩州、仙臺、藝州、長州、備前、因州、佐賀、阿州、土州、米澤、久保田、久留米、

對州、喜連川、盛岡、宇和島、弘前、山名中務、○下略

〔憲教類典二之一〕安永三甲午年十二月七日

松平右近將監殿御渡

諸大名乗物之儀、近頃は打揚腰網代に紛敷乗物相用候面々も相見候、打揚腰網代之儀は、國持、溜

詰、御三家之庶流、越前家、古來より相用候分計、以來とも可被相用候、其外は國持たりとも、近來新

規に相用候分は勿論、古來相用候共中絶いたし、近來相用候分は、向後可爲無用候、右之外は從前

之用來候、通例之乗物相用、尤打揚腰網代に紛敷乗物は、猶以可爲無用候、○中略

右之趣被相心得、此後とも打揚腰網代之乗物、虎革鞍覆相用茶辨當爲持候分は、大目付江可被相

届候、